

[19]九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート 表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1956599>

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート．19，2018-10．九州大学応用力学研究所
バージョン：
権利関係：

技術レポートの発刊に寄せて

技術室長 花田 和明

第3期中期目標・中期計画期間が開始されて2年以上が経過しました。応用力学研究所は、第2期中期目標・中期計画期間中に整備した3部門3研究センター体制を維持しつつ、学内連携や異分野融合・国際研究拠点化に向けて一層の飛躍が望まれます。一方、大学や研究所を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの研究者がその対応に追われる状況が続いています。我が国の科学・技術の情勢は、危機感を持って分析がなされています。最も重要なことは、研究者が必要な研究時間を確保できることであり、この意味において研究支援者の役割の重要度はますます増えています。

応用力学研究所技術室は、研究を効率的に支援できるように九州大学内で最も早く組織化されました。技術職員は、研究所や技術室に対する全体的な支援を優先しつつ、派遣先での専門性の高い技能を継承し、共同研究の支援を行っています。3研究分野に関連した班構成（環境利用技術、大気海洋技術、核融合技術）を横糸、取得すべき技能に応じた4グループ（機械工作、電気電子、情報基盤、環境整備）を縦糸とし、これらをつなぎ合わせることで専門性と技能向上を両立させる戦略をとっています。昨年度から、公開研究発表、計算機、建物環境整備の旧所内委員会業務を技術室と応用力学共同研究拠点事務室共同で行うことで、技術室が研究所全体の業務に多大な貢献をしております。今年度からは「技術支援の高度化」を旗印に、工作技術の高度化(3D CAD、3D プリンター)、電気回路技術の高度化(FPGA)、計算技術の高度化(AI)を目指した活動を開始しています。これらの技術支援の充実が、研究者の研究時間の確保に貢献するとともに、縦糸と横糸のバランスが整合して技術室が一層の発展を遂げていく契機となることを切に願っています。

本技術レポートは、技術職員の研鑽の場であるとともに、技術・技能の高さを広報する役割も担っています。本レポートが多くの方の目に触れて、応用力学研究所技術室のことを知っていただくとともに、その内容が社会や研究の場からの要請に応えることになれば幸いです。